

Ⅲ 主な出来事

○冬季の粗飼料不足対策として約 400 個のハカマロールを生産調製

さとうきび収穫後のハカマを活用したハカマロール生産調製数は、肉用牛農家 4 人でロールバール約 400 個となった（農業普及課調べ）。また、給与利用者 20 人のうち半数以上が、嗜好性は他の粗飼料と比べ良好、または変わらないと評価しており、冬季の粗飼料不足期の対策として重要視されつつある。農業普及課では引き続き関係機関と連携し、品質向上等の課題解決を図ると共に、ハカマロールが冬季の粗飼料として定着するよう、この取組を積極的に支援する。

○畑かん営農を推進する「畑かんマイスター」へ委嘱状を交付

5 月 21 日に伊仙町中央公民館で、4 期畑かんマイスターへ委嘱状を交付した。任期は令和 6 年度から 3 年間で、各町 5 人ずつの計 15 人（新規 8 人）が新たに委嘱された。畑かんマイスターは、畑かんを利用した先駆的な営農を実践している達人として、畑かん営農の積極的な実践活動、地域農業者への事例紹介・PR 活動、行政や地域への提言・助言等の活動を行う。交付式では、自分自身も徳之島地域全体も、畑かんを利用して儲かる農業につなげたいとの抱負が語られた。

○牛飼い塾で厳しい情勢下でのコスト低減策及び生産性向上策を学ぶ

6 月 17 日、徳之島中央家畜市場にて、徳之島地域総合営農推進本部畜産部会及び農業普及課の共催により、就農 5 年目までの新規就農者及び各町畜産振興会員を対象とした牛飼い塾を開催した。当日は、新規就農者等 67 人、指導農業士 4 人、関係者 21 人の計 92 人が参加し、肉用牛の飼養技術、牛の適正交配並びにハカマロールの活用について学んだ。農業普及課では、今後も関係機関と連携し、厳しい状況下でのコスト低減と生産性向上へ向けた支援を継続していく。

○面縄小学校の小学生、畑かんとサトウキビについて学ぶ

6 月 26 日に伊仙町面縄小学校で、小学 5 年生 18 人を対象に出前授業を行った。例年、出前授業ではサトウキビの栽培を紹介していたが、本年は、畑かん営農、サトウキビを前後半に分けて説明した。畑かん営農では徳之島の農業の特徴や水の必要性、サトウキビに関しては栽培管理と砂糖ができるまでの行程を 3m 近い夏植の株を持参して説明した。今後も、工夫をこらした出前授業を行っていく。

○新規就農者励ましの会を開催！

6月27日、徳之島3町の担い手育成総合支援協議会と徳之島農業改良普及事業協議会の共催で新規就農者励ましの会を開催し、新規就農者6人のうち5人が出席した。全体会では、営農に向けた抱負を1人ずつ発表し、新規就農者向けの各種支援策の紹介、新規就農の記念品の贈呈を行った。町別支援説明会では、町独自の支援策を紹介すると共に、先輩農業者・関係機関との人脈づくりの場となった。今後、農業普及課では「基礎講座」や「個別巡回活動」等を通じて、早期の営農確立に向けた支援を継続する。

○徳之島と北海道との労働力補完について検討を行う

徳之島では冬場に、北海道では夏場に労働力が不足することから、7月1～5日に、(株)南西サービス、農産園芸課、徳之島事務所で北海道に赴き、徳之島と北海道の労働力補完に関する人的交流について意見交換を行った。去年は徳之島から北海道へドライバーとして派遣を行ったが、本年は収穫作業や選果作業にも派遣を行っている。北海道からの受け入れる際の課題等について意見交換を行い、今後、課題を解決しながら労働力補完の取組を進めていく。

○沖永良部にてトルコギキョウ自家育苗技術について学ぶ

7月4～5日に沖永良部にて、トルコギキョウ自家育苗の先進事例調査を実施し、生産者・関係者計5人が参加した。播種から種子冷蔵までの管理作業を行っている様子を視察し、徳之島で昨年度から実証している生産者から多くの質問がなされ、活発に意見交換を行うことができた。徳之島ではまだ技術が確立されていないことから、今後も先進地との情報共有を図り、技術向上に努めていく。

○奄美群島の青年農業者が徳之島に集結

7月17日に令和6年度奄美群島青年農業者交流会 in 徳之島を開催し、奄美大島・沖永良部島からの参加者7人を含む計31人の青年農業者・関係者が交流を図った。交流会では、青年農業者3人による経営改善に向けた事例発表を行った。また、2か所での現地研修などを通して、意見交換を行った。農業普及課では、今後も奄美群島間の交流を図り、情報交換や連携強化に努めていく。

○令和５年度産バレイショの出荷販売実績から次年度対策を考える

７月３０日にＪＡあまみ天城事業本部，８月１日にＪＡあまみ徳之島事業本部のバレイショ部会反省会が行われ，両日とも生産者及び関係者計１００名以上が出席した。本年度は天候に恵まれ順調に生育したものの，病害多発により，計画を下回る出荷量となったことがＪＡ等から報告された。農業普及課は，排水対策や残渣を減らす取組を説明した。部会役員からは農薬散布や防風対策の徹底が呼びかけられるなど，総合的な病害対策の重要性を再認識する機会となった。

○東京都の果実専門店でピタヤの魅力をＰＲ

９月１０日に東京都の果実専門店「新宿高野」において，ピタヤ（ドラゴンフルーツ）のＰＲ活動を実施し，一般参加者１１人に対してピタヤの魅力を伝えた。当日は，有機栽培の南大隅町産和紅茶と共にピタヤを使ったデザートなどを提供し，徳之島産ピタヤと輸入品との違いやピタヤの栽培特性，徳之島の自然環境などについて紹介した。近年，国産ピタヤの知名度が向上しており，農業普及課では今後も徳之島産ピタヤの魅力を発信し，さらなる知名度向上に努める。

○省力化につながる畑かんの高度利用実演により，畑かん推進を図る

９月１０日，天城町の畑かんマイスターのサトウキビほ場で，液肥混入器の設置実演会が開催された。本会は畑かんの高度利用を目的としており，農業者と関係機関の約１５人が参加した。実演した液肥混入器は，散水と同時に液肥を混入し，濃度を自動調整する仕組みであり，畑かんを活用した液肥散布の省力化が期待されることから，今後の現地調査により効果を確認する計画である。また自給粗飼料でも実証予定であり，農業普及課では今後も継続して畑かん利用の推進を図っていく。

○新規就農者及び青年農業者が野菜の栽培基本技術を学ぶ

９月から１０月にかけて大島支庁徳之島事務所にて，管内で野菜を栽培する新規就農者及び青年農業者を対象に，座学の勉強会を計４回開催し，対象者約１５人が出席した。各回ごとにテーマを設け，土壌物理性改善や適切な肥培管理，病害対策，虫害対策等について，講義や演習を通して学んだ。会では，出席者から質問が多数出るなど反応は良かったため，農業普及課では改良を加えながら今後も本活動を継続していく計画である。

○高栄養飼料作物生産で生産コスト低減を目指す

10月7日に天城町畜産生産者1人が、飼料用トウモロコシの二期作栽培を約3haで開始した。冬も温暖な当地域では、秋冬季から初春にかけて飼料用トウモロコシの栽培が可能で、台風襲来リスクの低い秋冬季は高品質なものの生産が期待できる。農業普及課では、飼料用トウモロコシの重要害虫であるツマジロクサヨトウに対する初期防除薬剤の現地試験ほ場も設置し、子牛価格の低迷と飼料等資材の高騰下での生産コスト低減へ向け、高栄養飼料作物生産への取組を支援する。

○ばれいしょ新品種「しまあかり」の産地導入に向けた活動を開始！

10月30日にJAあまみ徳之島事業本部にて、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」の現地適合性試験に係る説明会を開催し、実証農家14人、関係機関6人が出席した。今年度は実証ほ場を16地点設け、「しまあかり」の現地適応性を評価する計画で、栽培スケジュールや調査内容、出荷体制等を協議し、実証農家との合意形成が図られた。農業普及課では、本実証や現地検討会を通して、品種切り替えの必要性及び「しまあかり」の周知を継続して取り組む。

○営農技術・経営研修会で先輩農家と語る会を実施

11月5日に徳之島町にて、営農技術・経営研修会(新ジャンプ会秋季研修と合同開催)を開催し、生産者及び関係者109人が出席した。島内でさとうきびを大規模に経営している大竹勝人氏、仲公男氏をパネラーとして、規模拡大や機械導入の経緯、独自の取組、後輩農家へ期待することなどについてディスカッションを行った。農地に空きがなく、規模拡大を希望する農家にとって、先駆者の取組事例が参考となることを期待したい。

○徳之島地区青年農業者会議で活発な質問が飛び交う

11月29日に徳之島町で徳之島地区青年農業者会議を開催し、農業者及び関係機関・団体の31人が参加した。会議では、4人の青年農業者が意見発表、プロジェクト発表、研修報告を行った。意見発表の部では、畜産農家が就農するまでに経験した内容や今後の営農目標、プロジェクト発表の部では、パッションフルーツの新たな仕立て方法に挑戦した内容について発表した。プロジェクト発表では活発な質疑応答がなされ、充実した内容の会議となった。

○青刈りハカマの粗飼料利用が本格始動

1月13,14日、伊仙町でさとうきび収穫残さである青刈りハカマの回収と牛への給与利用が本格始動した。回収者組織と利用者3人が1グループとなり、回収者がほ場でハカマの重量を測定後、利用者が運搬車両で受け取り、重量に応じて課金する仕組みである。回収日時、ほ場、量についてはSNSで連絡をし、効率化を図っている。青刈りハカマは、牛の採食性が良く、利用者から好評であった。当課では、ハカマロールと併せて未利用資源の活用によるコスト低減の支援を継続する。

○牛飼育塾で子牛、育成牛の見方を学ぶ

2月20日、徳之島中央家畜市場で営農推進本部畜産部会及び農業普及課主催の令和6年度第2回牛飼育塾を開催し、新規就農者14人を含む生産者及び関係者58人が出席した。徳之島の繁殖雌牛頭数は昨年度末で約1.2万頭で、当市場の子牛取扱頭数は県内3位である。本研修会は、産地の発展に向け、生産者全体の飼養管理技術の高位平準化を図るために開催し、和牛登録協会県支部から子牛・育成牛の見方、育成牛の栄養管理と繁殖成績を学んだ。活発な質疑応答で充実した会となった。

○徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」が力強く出発

2月1日、徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」の出発式が伊仙町総合体育館にて開催され、生産者、市場、JA、関係機関など約300人が出席した。今期の共販計画は徳之島全体で465haであり、共販達成目標は、出荷量1万t、販売額20億円を掲げた。今年度は栽培生育期間中に降雨が少なく、出芽のばらつきや生育遅延が認められるなど厳しい状況であるが、病害防除や、ほ場での一次選果の徹底による高品質なばれいしょ出荷に向け、結束力を高めた。農業普及課では引き続き、病害対策や肥大促進に向けて情報提供を行っていく。

○青年農業者1人が県青年農業士に認定

2月7日、鹿児島サンロイヤルホテルにて、県青年農業士の認定式が行われ、伊仙町4Hクラブの田畑奈々氏が認定された。田畑氏は生産牛経営を行っており、人工授精技術と繁殖成績の向上を図るため取り組んだ成果を地区青年農業者会議で発表するなど、地域を牽引する将来の担い手として期待される。農業普及課では、今後も青年農業者の課題解決に向けた活動を継続し、経営安定に向け支援していく。